



安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危険や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取り扱いをすることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですでの、必ず守ってください。
 - △警告**: 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
 - △注意**: 人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。
- お守りいただく内容の種類を次の総表示で区分し、説明しています。
- 総表示の例
-

- △警告**

 - 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
分解・修理・改造禁止
 - 交流 100 V 以外では使用しないこと
使用禁止
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
埋込禁止
 - アースを確実に取り付けること
アースを取り付ける
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
電源

△警告

 - レンジフードと排気ダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
取付注意
 - 火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災・故障の原因になります
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災・故障の原因になります
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります
- △注意**

 - メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けすること
取付注意
 - 周囲温度が 40°C 以上になるとところには取り付けないこと
取付禁止
 - 自然排気型のストップを使用するときは、空気の取入口(給気口)により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一般化粧品中毒を起こすことがあります
 - 運転中は、指や物を絶対に入れないことをけがをするおそれがあります
接觸禁止
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと
落すことによりけがをするおそれがあります

△注意

 - 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
浴室使用禁止
 - 手袋をする
 - 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
手袋をする
 - レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落すことによりけがをするおそれがあります
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと
落すことによりけがをするおそれがあります

取り付け上のお願い

● 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。

- ・大工工事【設置のための下地工事等】
- ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
- ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】

流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

● ダクトの不燃処理について

- ・ダクト 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。

・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。

● 調理機器の場合はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。

調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出しても設置しないでください。排気効率が低下します。

● 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはダクトの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。

防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。

● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効率をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

● レンジフード取付面の補強部に、取付用座ねじが確実に届くことを確認してください。

取付ベース・取付ベース引掛棒の取付用座ねじは 45mm の長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。

また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。

● レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。

なお、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。

ただし、防火性能評定品または特定安全 IH 調理器適合品の調理機器の使用に限り、60cm 以上、80cm 未満で設置することが可能です。

● レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けてください。

また、前方 50cm 以上離して取り付けてください。

湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。

● 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。

● 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³/程度の空気取入口を設けてください。

● 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れの場合がありますので断熱材を巻くことを確認してください。

● ダクトは必ず屋外側に向て下り勾配を設けてください(目安: 1/100~1/50程度)。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。

● レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。

レンジフードへの通電が遮断されると、お手入れ時期の表示(お手入れランプ)を正しくお知らせできなくなります。

● 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。

塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

● サーモ ON サポートを正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

● 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³/程度の空気取入口を設けてください。

● 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れの場合がありますので断熱材を巻くことを確認してください。

● ダクトは必ず屋外側に向て下り勾配を設けてください(目安: 1/100~1/50程度)。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。

● レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。

レンジフードへの通電が遮断されると、お手入れ時期の表示(お手入れランプ)を正しくお知らせできなくなります。

● 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。

塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

● サーモ ON サポートを正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

● 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³/程度の空気取入口を設けてください。

● 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れの場合がありますので断熱材を巻くことを確認してください。

● ダクトは必ず屋外側に向て下り勾配を設けてください(目安: 1/100~1/50程度)。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。

● レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。

レンジフードへの通電が遮断されると、お手入れ時期の表示(お手入れランプ)を正しくお知らせできなくなります。

● 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。

塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

● サーモ ON サポートを正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

● 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³/程度の空気取入口を設けてください。

● 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れの場合がありますので断熱材を巻くことを確認してください。

● ダクトは必ず屋外側に向て下り勾配を設けてください(目安: 1/100~1/50程度)。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。

● レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。

レンジフードへの通電が遮断されると、お手入れ時期の表示(お手入れランプ)を正しくお知らせできなくなります。

● 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。

塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

● サーモ ON サポートを正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

● 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³/程度の空気取入口を設けてください。

● 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れの場合がありますので断熱材を巻くことを確認してください。

● ダクトは必ず屋外側に向て下り勾配を設けてください(目安: 1/100~1/50程度)。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。

● レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。

レンジフードへの通電が遮断されると、お手入れ時期の表示(お手入れランプ)を正しくお知らせできなくなります。

● 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。

塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

● サーモ ON サポートを正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

● 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³/程度の空気取入口を設けてください。

● 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れの場合がありますので断熱材を巻くことを確認してください。

● ダクトは必ず屋外側に向て下り勾配を設けてください(目安: 1/100~1/50程度)。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。

● レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。

レンジフードへの通電が遮断されると、お手入れ時期の表示(お手入れランプ)を正しくお知らせできなくなります。

● 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。

塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

● サーモ ON サポートを正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

● 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³/程度の空気取入口を設けてください。

● 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れの場合がありますので断熱材を巻くことを確認してください。

● ダクトは必ず屋外側に向て下り勾配を設けてください(目安: 1/100~1/50程度)。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。

● レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。

レンジフードへの通電が遮断されると、お手入れ時期の表示(お手入れランプ)を正しくお知らせできなくなります。

● 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。

塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

● サーモ ON サポートを正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

● 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³/程度の空気

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上の注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた(つづき)

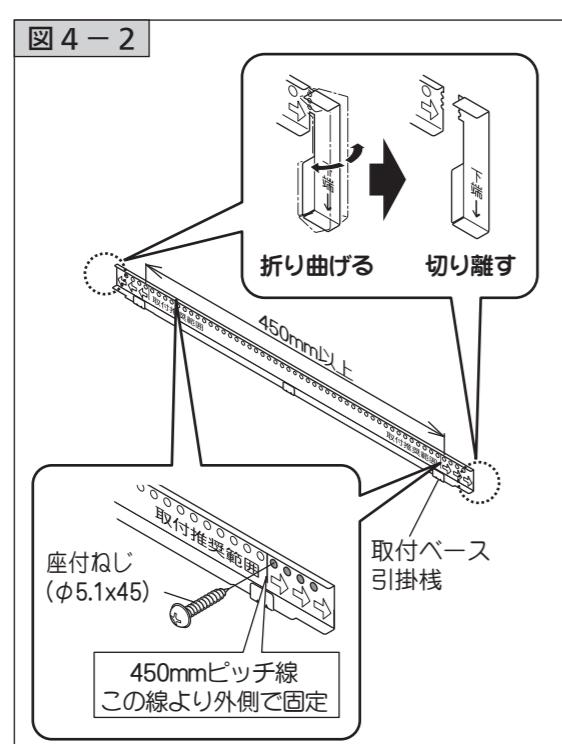
2 取付ベース引掛桿を取り付けます。(図4-2)

1) 取付ベース引掛桿を付属品の座付ねじ($\phi 5.1 \times 45$)2本で取付推奨範囲(刻印あり)に固定します。

お願い
座付ねじ取り付け位置は45mm以上離し、取り付け面の補強部に確実に届く場所に固定してください。

※ 取付推奨範囲外での取り付けや壁面の強度などの影響でレンジフードが前倒する場合は、市販のねじで増し打ちしてください。

2 取付ベース引掛桿の両端を折り曲げて切り離します。

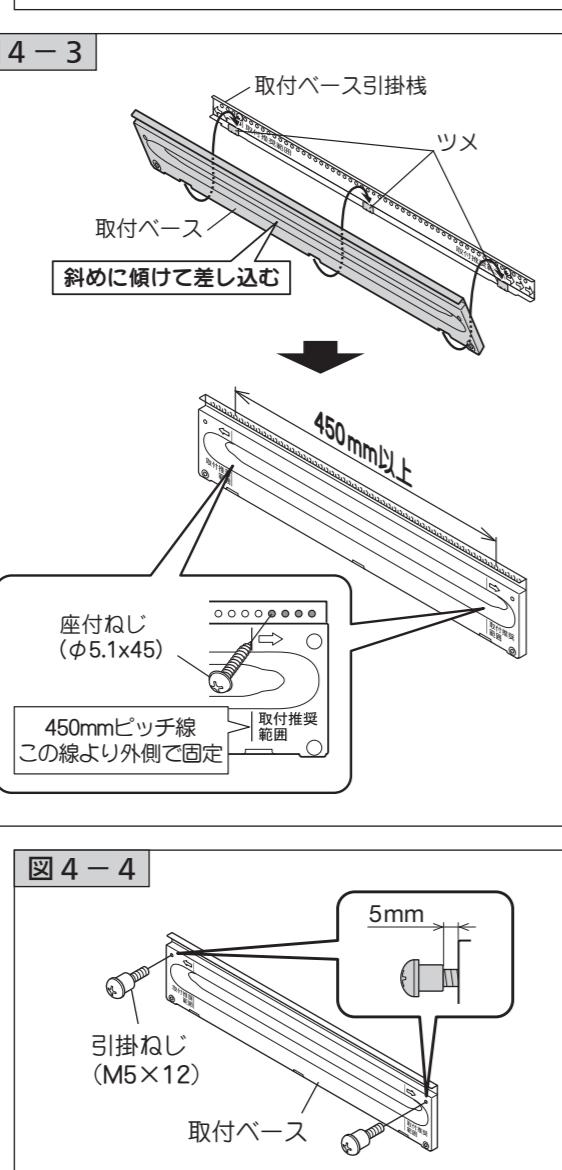


3 取付ベースを取り付けます。

1) 取付ベースの角穴を取付ベース引掛桿3ヶ所のツメに引っ掛け、上側を付属品の座付ねじ($\phi 5.1 \times 45$)2本で取付推奨範囲(刻印あり)に固定します。(図4-3)

※ 取付推奨範囲外での取り付けや壁面の強度などの影響でレンジフードが前倒する場合は、市販のねじで増し打ちしてください。

2 取付ベース上部に付属品の引掛ねじ($M5 \times 12$)2本をねじ込み、さきま5mmまで締め付けます。(図4-4)



4 本体を取り付けます。(図4-5)

1) 手順③の2)で取り付けた取付ベース上部の引掛ねじ($M5 \times 12$)2本に本体のだるま穴を引っ掛けた後、しっかりと締め付けます。

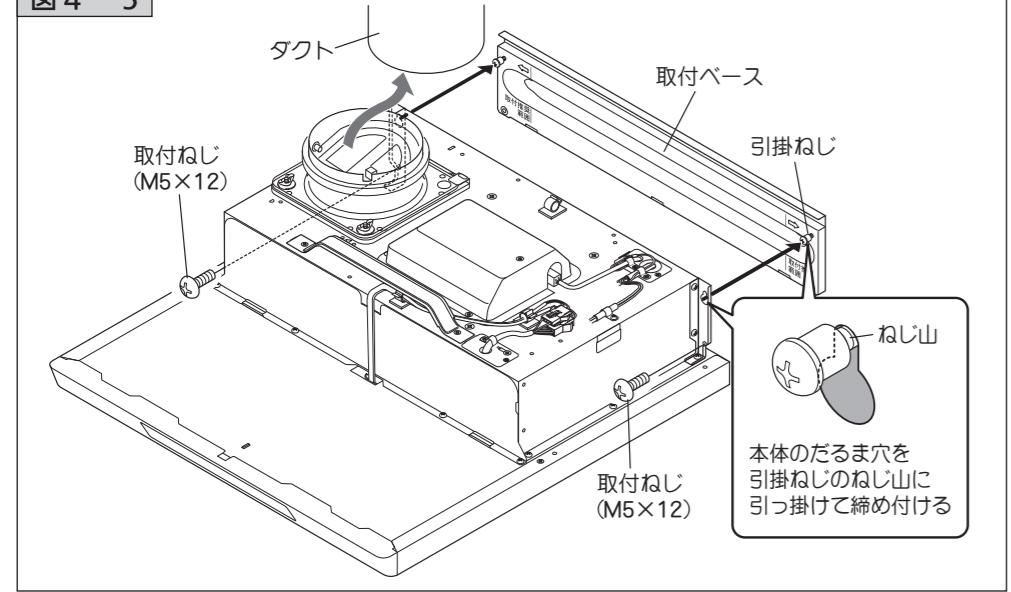
※ 取っ手は、本体を引っ掛けた際の持ち手として使用できます。

お願い

・必ず引掛ねじのねじ山に引っ掛けしてください。

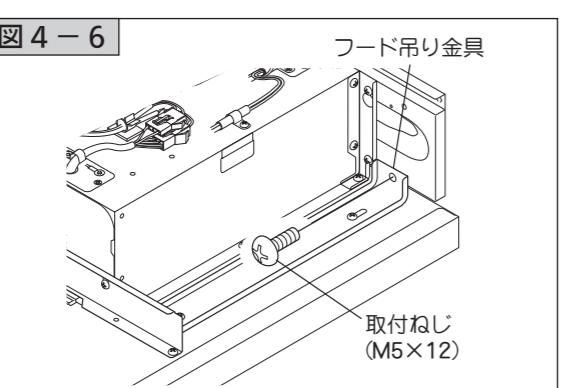
・上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

2 左右のだるま穴下側の丸穴に、付属品の取付ねじ($M5 \times 12$)2本をねじり固定します。(図4-5)



750および900間口の場合

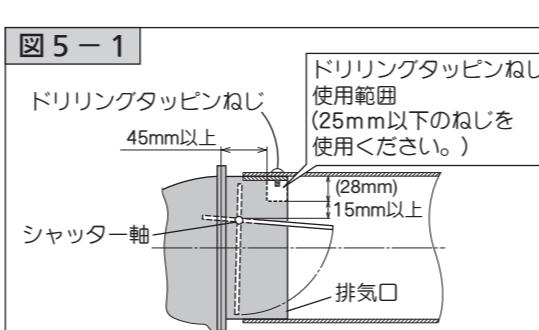
3 左右のフード吊り金具の丸穴に付属品の取付ねじ($M5 \times 12$)2本をねじり込み、しっかりと固定します。(図4-6)



5. ダクトと排気用部品の接続

お願い

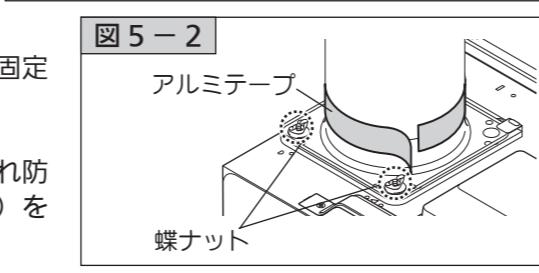
ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピングねじを使用範囲以内に固定してください。(図5-1)



■ 上方排気の場合(図5-2)

1) 排気口の蝶ナットをしっかりと固定します。

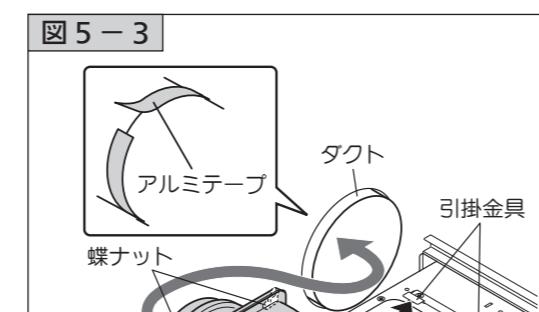
2) ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテープ(アルミテープ)をおこないます。



■ 側方・後方排気の場合

1 排気口をダクトに接続します。(図5-3)

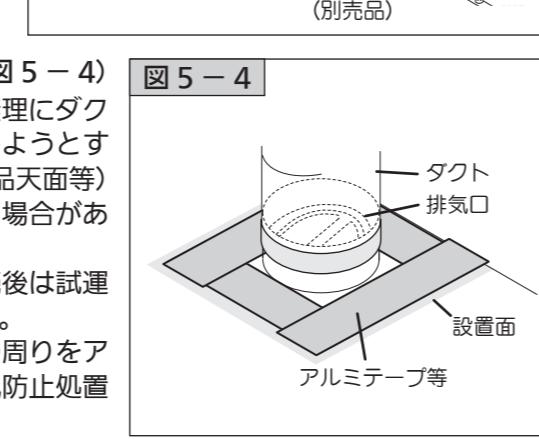
1) L形ダクト(別売品)を排気口取付部にある引掛金具のツメに差し込みながら排気口をダクトに挿入し、付属品の低頭ねじ($M4 \times 16$)2本で固定します。



2 風漏れ防止のテaping(アルミテープ)をおこないます。

■ 排気口設置面の風漏れ確認のお願い(図5-4)

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面(製品大面)等が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現場調達品)で漏風防止処置をおこなってください。



6. 取扱説明書およびオイルガード固定テープの取りはずし

■ 保護用クッション材をいったん取りはずし、整流板に貼り付けてある取扱説明書をはずします。

■ 付属の取扱説明書を参照して整流板を取りはずし、オイルガードを固定しているテープをはがします。

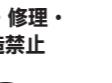
■ 固定テープをはがした後は整流板をもどおりに取り付けてください。

7. 電気配線

警 告



● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



● 交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります



● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります



● アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください



分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。



● お願い
・電源は専用のコンセント(2極差込接続器15A、125V)およびブレーカーを設けてください。

・「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。

・コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。

・必ずアース(△種接地工事)をしてください。

・レンジフードの配線工事の際、壁スイッチを設置しないでください。



● お願い
・電源は専用のコンセント(2極差込接続器15A、125V)およびブレーカーを設けてください。

・「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。

・コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。

・必ずアース(△種接地工事)をしてください。

・レンジフードの配線工事の際、壁スイッチを設置しないでください。



● お願い
・電源は専用のコンセント(2極差込接続器15A、125V)およびブレーカーを設けてください。

・「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。

・コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。

・必ずアース(△種接地工事)をしてください。

・レンジフードの配線工事の際、壁スイッチを設置しないでください。

● お願い
・指示箇所以外のコネクターははずさないでください。

・コネクターをはずす際はコネクター部分を持ち、ツメを押しながら抜いてください
(コードを持って引き抜かないでください)。

2) フードを上に持ち上げ、2ヶ所のフックを本体からはずします。

(図6)

● お願い
・クッション材を押す場合は、必ず押す方向に押す。

3) 整流板をそのままゆっくり開き(2)、整流板の奥側を本体側に押し付けるようにしてコード引掛け部から整流板引掛け部をはずします(3)。

(図3)

● お願い
・整流板を变形させないように、必ず左右同時にはずしてください。

4) 整流板をそのままゆっくり閉き(2)、整流板の奥側を本体側に押し付けるようにしてコード引掛け部から整流板引掛け部をはずします(3)。

(図3)

● お願い
・オイルガード押え部を持たないでください。オイルガード押え部は必ずあります。

5) はずしたフードはキズ、変形防止のため、オイルパネルが上になるようにして置きます。(図7)

● お願い
・オイルガード押え部を持たないでください。オイルガード押え部は必ずあります。

6) 整流板をそのままゆっくり開き(2)、整流板の奥側を本体側に押し付けるようにしてコード引掛け部から整流板引掛け部をはずします(3)。

(図3)

● お願い
・オイルガード押え部を持たないでください。オイルガード押え部は必ずあります。

7) はずしたフードはキズ、変形防止のため、オイルパネルが上になるようにして置きます。(図7)

● お願い
・オイルガード押え部を持たないでください。オイルガード押え部は必ずあります。

8) はずしたフードはキズ、変形防止のため、オイルパネルが上になるようにして置きます。(図7)

● お願い
・オイルガード押え部を持たないでください。オイルガード押え部は必ずあります。

9) はずしたフードはキズ、変形防止のため、オイルパネルが上になるようにして置きます。(図7)

● お願い
・オイルガード押え部を持たないでください。オイルガード押え部は必ずあります。

10) はずしたフードはキズ、変形防止のため、オイルパネルが上になるようにして置きます。(図7)

● お願い
・オイルガード押え部を持たないでください。オイルガード押え部は必ずあります。

11) 本体側のケーブルとフード側のケーブルを接続します。接続後、フード側のケーブルをクラップに固定します。(図13)

● お願い
・接続箇所で接続する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

・接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。

12) 1) ではすした取付ねじ($M4 \times 8$)10本で、フードと本体を固定します。(図14)

● お願い
・必ず取付ねじを拧り付けてください。

13) 本体側のケーブルとフード側のケーブルを接続します。接続後、フード側のケーブルをクラップに固定します。(図15)

● お願い
・接続箇所で接続する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

・接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。

14) 排気口の引掛け部を取付ねじ($M4 \times 8$)2本で補強桿を取り付けます。(図15)

● お願い
・コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

・奥まで挿入して、動かさないでください。

15) 手順1.2ではすした整流板とオイルガードをもどおりに取り付けてください。

※ 取り付けください。

16) レンジフードを取り付けます。

表面の「3. 排気用部品の準備」以降の手順に従い、取付作業を完了させてください。

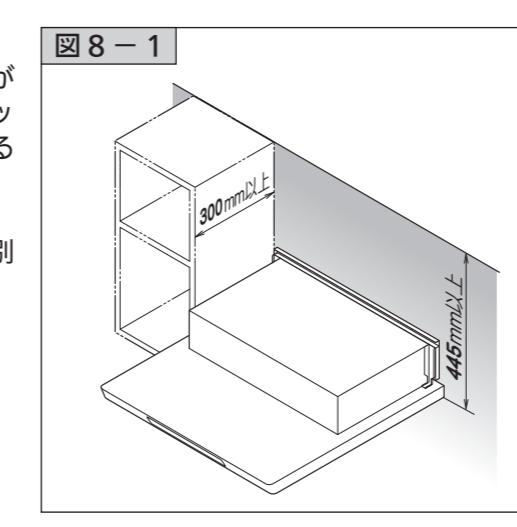
取り付けかた(つづき)

8. 幕板の取り付け

■ 取り付け前の寸法確認(図8-1)

フード下面から天井までの高さが445mm以上、また窓からキャビネット本体までの奥行300mm以上あるかそれぞれ確認してください。

※ 奥行が300mm未満の場合は別売の横幕板をご使用ください。



■ 調整目隠し板左(右)を取り付けます。(図8-7)

調整目隠し板左(右)を調整目隠し板下に差しこみ、天井に合うよう位置を調整して木ねじ2本で固定します。

※ 木ねじ2本は、うち1本を調整目隠し板上にある一番上の穴、もう1本を調整目隠し板下に最も近い穴に取り付けてください。

</